

★グアイダーに冷たくなってマドゥーロとの会談を検討＝ドナルド・トランプ

2020年6月21日 アクシオス (Axios)

ジョナサン・スワン記者

トランプ大統領は6月19日、大統領執務室でのアクシオス (Axios) とのインタビューで、ファン・グアイダーをベネズエラの正当な指導者として認めた決定を見直したことを示唆し、独裁者ニコラス・マドゥーロと会談する用意があると述べた。



中心ニュース：トランプ大統領はマドゥーロと会うつもりがあるかどうか尋ねられて、「考えてみたい。マドゥーロも会いたがっている。私は会談に反対したことはめったにない」「会談して失うものはほとんどないといつもいっている。ただ現時点では、断っている」と言った。

大状況：トランプ氏はまた、米国や各国の支援にもかかわらず、ベネズエラ政府を掌握できなかったグアイダーをあまり信頼していないことを示した。元国家安全保障補佐官のボルトン氏のグアイダーに関する助言に従う決断を後悔したかと尋ねられ、当初は「特にしていない」と言い、続けて、「彼の助言があってもなくても仕事はできたが、私はベネズエラで起きていることに対して非常にはっきりと批判していた」と答えた。

トランプ氏は、彼がグアイダーを鑑定し承認した時点について、「グアイダーが選ばれた。私は必ずしも賛成ではなかったが、彼を好きだった人もいたし、好きでない人もいたが、私はOKした。どちらにしても、それほど意味があることだったとは思わない」と語った。

重要性：トランプがマドゥーロと会うことになれば、ベネズエラに対する米政権の方針を完全に覆すことになる。ペンス副大統領やポンペオ国務長官を含む最高

行政当局は、グアイドーを支援するために莫大なエネルギーを費やしてきた。そして3月に、ビル・バー司法長官は、司法省がマドゥーロを麻薬テロで起訴していると発表した。告発を発表した司法省のプレスリリースは彼を「ベネズエラの元大統領」と呼んだ。

舞台裏：ベネズエラ対策が西側でいまよりホットな問題であったとき、弊誌は2年半にわたる政権の対応を追跡してきたが、トランプ氏のコメントについて元トランプ政権の高官が話してくれた。

2017年にベネズエラ政府は、マドゥーロがトランプとの会談の意欲をもっていることを伝えるため、少なくとも2度ホワイトハウスと国務省に連絡を取ってきたと、元高官は語った。

その例の1つでは、ベネズエラ大使館がホワイトハウスに電話をかけてきた。もう一件は、書簡で来た。マドゥーロはトランプと会いたいという希望を公に表明していた。

トランプがマドゥーロと会うことは2017年と2018年に政権内で「繰り返し取り上げられた関心事」だったと元高官は述べた。「それは、実際、止まったり、しばらくすると動いたりした」「ベネズエラの反政府派はそれに憤慨していた」と彼は言った。。

大統領は、2018年にマドゥーロに会ってもよいとのシグナルを送った。しかし、やはりまた、「すべての選択肢」が検討されている、つまりベネズエラに対する軍事行動を検討しているというシグナルも繰り返し述べた。

本の中で：ボルトンは、自著「それが起こった部屋」で、グアイドーに関するトランプの個人的な感情についてこう書いている。「彼は、グアイドーは『強い』マドゥーロとは違って『弱い』と思っていた」「トランプは春まで、グアイドーをベネズエラのベト・オルーク*と呼んでいた。グアイドーに対して、米国の同盟国が期待するような賛辞はほとんどなかった」。

*18年の上院議員中間選挙で共和党のテッド・クルーズに僅差で敗れたロバート・フランシス・「ベト」・オルーク民主党候補。

「それは救いがたいもので、野党がマドゥーロを転覆できなかったことで（トランプは）私を非難し始めたが、これは周りの人々を不用意に貶める典型的なやり方だった」。

アクシオスとのインタビューで、トランプは、ボルトン元国家安全保障補佐官を、

イラク戦争をしつこく支持した「地球上で最も馬鹿げた人間」が「くだらない仕事」を行ったかもしれないと説明した。